

## 大会テクニカルレポート

大会名 JA東京カップ 第30回東京都5年生サッカー大会中央大会

日時 10月6日(土)から同月8日(月)まで 会場 稲城市中央公園総合グラウンド  
稲城長峰ヴェルディフィールド

東京都少年サッカー連盟 委員長 吉實 雄二  
技術指導部 井上 雅志  
文責 技術指導部 工藤 正使

### 結果概要

優勝 JACPA東京SCJr 準優勝 FC85オールスターズ

	試合数	得点数	1試合当たり得点数
今大会	66	224	3.39

講評 東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために

#### ①観て判断する

プレッシャーが厳しくない中では、ボールから目を離し、状況を観て判断できるが、厳しいプレッシャーの中では観る事ができず、ボールを奪われてしまう、あるいはパスをミスしてしまう場面が多かった。しかし、全体的には高いレベルだった。

#### ②判断を伴ったテクニックの発揮をする(ファーストタッチの質・プレーの選択)

ボールを貰う前の準備、パスしたら動く等の基本的な事が出来ている選手が多く、状況によってファーストタッチを工夫し、プレーを選択していた。特に、ボールを足元に止めることなく、ファーストタッチで動かすことなどが自然にできている選手が多かった。

#### ③攻守に関わり続ける

前線から激しくボールを奪いに行くチームが多く、プレスの状況に応じて第2DFも関わっていた。また、攻撃において、相手選手が自陣ゴール前を固めている時にはDFが攻撃参加して、攻撃に厚みを加えているチームも多かった。

#### ④積極的にコミュニケーションできる

守備の場面等においては互いにマークの確認等を行っている選手もいたが、チーム全員がコミュニケーションをとっている場面はまだ少なく、特定の選手のみが積極的に支持等を出している状況であった。

#### ⑤リスペクトの心をもてる

審判のジャッジに対して不満を表す選手もいたが、相手選手に謝る、ボールを拾いに行く等、子供らしい行動は随所に観られた。

### 総評

全体的には個々の能力やテクニックレベルの高い選手が多かった。特に守備面において、1対1の場面でむやみに飛び込んで抜かれるのではなく、我慢強く対応しながらタイミングを狙ってボールを奪える選手が多かった。また、前から厳しくプレッシングをかけてボールを奪いに行くスタイルのチームが多く、カバーリングの対応も速いため、個の力で崩すことが難しい状況であった。今後、ますます厳しいプレッシャーで時間と自由を奪われていくであろう中で、観ること、そして判断を伴ったテクニックをより質の高いレベルで発揮していくことが、プレーの質を上げていくことになっていくように思う。